

平成 26 年度第 2 回タウンミーティング
～ 質疑応答 ～

- 公共施設再生計画の中で第 1 期の中に大久保地区の公共施設再生が入っている。これは秋津からは少し遠い場所ではあるが、気になることが一つある。

大久保地区に大久保図書館があって、この図書館が建て替えの対象になっている。一方で、先ほど市長が「やらなければならないサービスがある」と言ったが、今、本市には中央図書館がない。現状では、大久保図書館が中央図書館的な役割を果たしている。同じような大きさをただ造っただけでは、本来やらなければならないサービスができない。そのあたりをどのように考えているのか。

秋津地区には、大久保の情報があまり入ってこないのによくわからない。

【回答】

今、おっしゃるとおり、大久保図書館は習志野市の中央図書館的な機能を果たしております。今回の計画では、大久保図書館に藤崎図書館を併合する形となっているので、多少大きくなるということを見込んでおります。

図書館の運営方法というのは 2 種類ありまして、1 つ目は中央に大きく集めて中央図書館として運営する方法、2 つ目は地域の利便性を鑑みて、地域に分散させ運営する方法です。

習志野市の場合は、従前より「分散させる方法」で運営してまいりました。したがいまして、この狭い市域の中に新習志野、大久保、東習志野、藤崎、谷津の 5 か所に図書館がある形となっております。

これを、今回は藤崎を大久保に集約し、施設を少し大きくすることとしております。要するに、今後もこれまでとおりに地域に分散し、運営していきますが、大久保図書館は藤崎図書館を併合することにより、少し中央図書館に近いイメージになる、というように見えています。

- 公共施設再生計画における小・中学校の統廃合など身近な問題について、長期的なものをもう少し説明してもらいたい。

また、私は、習志野市の市民一人当たり納税額は高額だと記憶しているが、近隣の市町村との比較について、もう少し説明してもらいたい。

【回答】

今日、少し時間がなかったので、大まかな話に終始しましたが、御指摘のように、習志野市の一人当たりの納税額は、全国的に見て高額です。言うまでもありませんが、課税率等は他市同様です。単に所得が高いのです。789 市の中で 100 番以内に入っています。それだけ優良な地域です。ありがたいことです。

しかしながら、先ほど言ったように、その高い税収環境の中で、さまざまなサービスをすでに行っている。このことによって、今、財政状況が厳しいということです。

平成 26 年度第 2 回タウンミーティング
～ 質疑応答 ～

先ほど習志野市では、4つの独自のサービスを行っていることをお話ししました。この部分が、まさに「税収環境」がいい、という状況の中で行ってきた施策です。しかしこの施策が、今度は維持費や、管理費、人件費という形で、これからやろうとしているサービスを少なからず圧迫しているという状況です。ですから、先ほど言ったように「財政環境は豊か。しかし財政状況は厳しい」ということです。

そこで、本市の良好な財政環境という特徴を生かし、今後さらに税収を上げていく形をとっていきたい、という話をさせていただきました。

また、公共施設再生計画における秋津地域については、具体的なお話ということで言えば、例えば七中が三中に統合されるというようなお話が、いろいろ飛び交っていると思います。しかしながら、先ほどお話ししましたとおり、現在は、第1期計画は確実に実行し、第2期、第3期については状況を見ながら検討していく、ということでありますことから、あまり皆さんに余計な心配をおかけしないという意図もあり、具体的なお話はしませんでした。

現計画は、まだ正式決定ではない、このままの財政状況で行くところなる、というものをお示ししているものとして、御理解いただければと思います。

● 奏の杜は若い人が予想以上に入り、学校が足りないとのことである。ところが秋津周辺の学校は、空き教室がいっぱいある。

また、この付近の保育所の様子を見てみると、秋津、香澄だけではなく、結構遠くから来ているようである。

秋津から津田沼の距離は2キロメートルもない。それぐらいの通学範囲であれば、小学校などへの通学も、もう少し柔軟に分散させればよいのではないか。

【回答】

秋津小学校の通学区域は、通学すべき学校の指定を弾力化しており、市内全域から選択できる学校としております。

谷津小学校の問題はいろいろ耳に入っていると思いますが、通学区域いわゆる学区の問題に関しては、地域に「学区を変える」ということに対する抵抗感があります。

今回のように大きなマンションなどが建つと、若い方々がたくさん増えることとなります。例えば、秋津、あるいは袖ヶ浦の団地を、URのほうで建て替えるというようなことが出てくると、当該地域の容積率には建物を少し大きくできる部分がありますから、新たな価値を含んだ建物になれば、ここにも若い人が入ってくると思われれます。そうすると秋津小学校の人数も増えてきますから、当然、統廃合は考えられないということにもなってきます。

そういうこともあるので、第2期、第3期のことは今具体的にはあえて話をしませんでした。